

史泉

第四十五号

長崎来航唐船の経営構造について……………松浦 章 (1)
——特に乾隆・嘉慶・道光期を中心に——

古代 輸送考(下)……………高橋 隆博 (34)

博多宗伝と以心宗伝(下)……………泉 澄一 (59)

新出・小堀遠州書状……………小西愛之助 (78)

昭和四十六年度史学科卒業論文題目(一部・二部・大学院)…………… (82)

イラン通信……………末尾 至行 (87)

史 泉

第四十四号 昭和四十七年三月

古代輸送考(上)……………高橋 隆博

博多宗伝と以心宗伝(上)……………泉 澄一

山片蟠桃と海保青陵の経済思想について……………井上 実

古い手紙と文書あれこれ(6)……………末永 雅雄

紹介 三木與吉郎編『阿波藍譜 精藍事業篇』

古西義麿編『鶴牧藩日記』

ランで観察していても、牛の舌料理など、よくうけているようです。ただし料理は荒っぽく、この間も牛の舌を食べていて固いものにゆきあたり、舌に骨はないはずだととり出してみると、数本の牛の歯でした。舌とともにどうやら顎肉までが調理されているらしい。思わず吹き出してしまいました。

この二カ月間は、テヘランに滞在したまま相変らずペルシア語の勉強に精出しながら過ぎてきました。多少は口がなめらかになつてきたといえるのでしょうか。テヘランの郊外に出かけたのは、フルタン君の案内で、じゅうたん洗濯業者が使っているので有名なレイというところの「アリーの泉」と、ヴァラミン村のカナート掘りの現場を見学にいったきりです。「アリーの泉」には十三年前はかたわらに茶店があり、じゅうたんをぐしごしやっているその泉の水で茶をわかしていたものですが、さすがになくなっていました。カナートは本学の織田武雄先生の御研究分野ですが、横穴の補強に時々用いられる土管が、かつての粘土の素焼からコンクリート製に一変しているのにも驚かされました。

七月には、イラン東南部のシースタン地方への旅行を計画しています。中世アラビアの

地理書にも述べられている風車が、現在も機能を果しているというので、ぜひとも確認したいわけです。暑さは大変なものだと覚悟しています。

史 泉

第四十五号

五百円 (予30円)

昭和四十七年九月三十日發行

大阪府吹田市千里山

編集兼
発行者

関西大学史学会

振替大阪二六〇一六番

代表者 原 弘二郎

印刷所

京都市南区東九条西岩本町八
大宝印刷株式会社

藤本勝次著

46年6月刊

マホメット — ユダヤ人との抗争 —

中公新書 中央公論社・定価二五〇円

大庭 脩著

46年12月刊

親 魏 倭 王

学生社・定価一〇〇〇円

大庭 脩編

47年1月刊

官内庁 書陵部蔵 舶載書目 付分類舶載書目解題索引

関西大学東西学術研究所・定価五〇〇〇円

福尾猛市郎著

47年2月刊

日本家族制度史概説

吉川弘文館・定価八〇〇円

柴田 実編

47年3月刊

石田梅岩全集 上・下

清文堂出版・定価一三〇〇〇円

多々良木地区民俗資料調査団(団長 柴田実)編 47年3月刊

多々良木 民俗資料調査報告書

兵庫県朝来郡朝来町教育委員会・頒価七〇〇円

蘭田香融編

47年3月刊

和歌山市における古墳文化 — 晒山、総綱寺合古墳群・樽見遺跡調査報告

関西大学文学部考古学研究第四冊・頒価六〇〇〇円

藤善真澄著

47年3月刊

安禄山と楊貴妃 — 安史の乱前後 —

人と歴史シリーズ・東洋8 清水書院・定価四三〇円

有坂隆道編

47年4月刊

日本洋学史の研究Ⅱ

創元学術双書 創元社・定価一八〇〇円

末永雅雄編

47年7月刊

シンポ シウム 高松塚壁画古墳

創元古代史選書1 創元社・定価六五〇円

横田健一編

47年8月刊

韓国史跡の旅

創元古代史選書2 創元社・定価六五〇円

橿原考古学研究所(所長 末永雅雄)編著

47年10月刊

壁画古墳 高松塚 調査中間報告

奈良県教育委員会・奈良県明日香村・頒価一〇〇〇〇円